

# The Women's Studies Association of Japan

学会ニュース 日本女性学会  
第43号 1990年10月

発行 日本女性学会  
事務局 東京都文京区弥生2-4-16  
学会事務センター気付  
TEL 03-817-5801  
領 価 一部 300円

## '90 秋季大会のお知らせ

日 時 : 1990年12月15日(土)~16日(日)  
大会テーマ : "女性への暴力"  
場 所 : 国立婦人教育会館(埼玉県・武蔵嵐山)  
研究発表およびワークショップ申込 : 10月30日まで  
(大会担当者 秋山洋子または船橋邦子宛)  
宿泊申込 : 次号でお知らせします。

秋季大会は、例年関西で行なってきましたが、今回は、関西に適切な場所が得にくかったため、上記のように行なうことになりました。会館の都合により、期日が例年とずれていることもあわせて御了承下さい。泊り込んでじっくり語り合う場をもちたいと思いますので、ぜひ参加御予定下さい。

### 事務局移転・運営体制の 変更についてのお知らせ

日本女性学会も、会員数200名をこえて、ますます発展しつつあることは嬉しいことです。しかし、それと共に、運営の仕事を幹事のボランティアで行なうことにはかなりの無理をとまうようになりました。幹事に当選されて辞退される方が多くあることも、お互いに忙しい状況を物語っています。幹事のなかで、役割分担のひきうけ方如何によって、比較的少数の人間に過重な負担がかかり、特に事務局が大変、ということも明らかになってきています。

そこで、今回、別掲の幹事会ニュース抄録にあるような話し合いを経て、総会決定により学会事務センターへの事務局移転が決定され、さらに新幹事会で討論のうえ役割分担を1990年、1991年の2年度に分けてチームをつくった上でなるべく公平な分担を心がけ、学会としての連続性の欠落を防ぐためにかねて規約にありながら用いられてこなかった常任幹事のシステムも活用していくことにしました。何かと会員に御不自由をおかけすることもあるかと思いますが、雑用の荷を軽くしたうえで、全幹事、さらには会員全員が、運営に、より積極的に、「誰かにおまかせ」的でなく関わりたい、との趣旨ですので、この点をお含みの上、新しいシステムを共に育てていって下さいますようお願いいたします。

### <新事務局の住所・電話・機能>

〒113 東京都文京区弥生2-4-16  
学会事務センター気付 日本女性学会  
(TEL 03-817-5801)

委託内容は、名簿管理(入退会・住所変更の受け付けを含む)、会費徴収、学会ニュース発送、郵便・電話の受け付けと転送・伝言、などです。学会に関してお気づきのことや御要望などありましたら、担当幹事へ直接御連絡頂く他、この取り次ぎ機能を積極的に御利用下さい。なお、会費については、事務センターから振込用紙が送られますので、それをご利用ください。

### 学会誌編集委員会より

- ◆再三にわたり検討を重ねました結果、学会誌掲載論文を1991年3月31日締め切りにて、再度募集致します。フェミニズムの視点から、できる限り周到な論証のなされた創造的な論文を期待致します。
- ◆学会誌編集委員会の事務局が下記に移転致しました。

# 6 月 大 会 報 告

講演・パネル・ディスカッション、  
研究発表・ワークショップ報告

1990年6月大会は、横浜女性フォーラムで、「生殖の政治学」をテーマに、特別企画を含めて、6月29日～7月1日の3日間にわたって行なわれました。本号は、率直な議論が白熱した総会に関して河出三枝子さんが書記として綿密な議事録をまとめて下さり、また、事務局の移転その他運営上の記事も多くありますので、講演・パネルディスカッション、研究発表・ワークショップ等については以下に簡単に御報告するにとどめます。

6月29日の特別企画、加藤シズエさん講演「私の軌跡 93年 からだの自己決定権をめぐる」は、会員・非会員合わせて200人余の参加をえて行なわれました。93年の人生をふり返りつつ、今日の状態に触れ、国家や男性の都合に合わせて女性が出産についての決定をするのではなく、あくまでも自分の側からの決定を追求すべきことを説かれ、「日本は日本人が継承する、そのためには子どもを何人生まなければ」式の発想ではなく、よりグローバルに地球の人口問題を考えつつ女性一人一人が自分の人生を尊重してゆくことによって、出産に関する自己決定を貫くことができるのだと、わかりやすく、力強く述べられたのが印象的でした。

6月30日のパネル・ディスカッション「生殖技術と女の自己決定権」では、長沖暁子・石塚友子・上野博正の三氏の問題提起を受けて、内藤和美氏の司会により、生殖技術と母性イデオロギーの絡み合いのなかで新たな女性への支配が滲透し、女の自己決定権を脅やかそうとしている状況について討論が行なわれました。会員外からの提起を中心に据えざるをえなかった現状をかえりみると、さらにこの問題について会員の関心が高まる必要があることを痛感します。

7月1日の個人研究発表は、竹内陽子・中野恵美子・田中由布子・富岡明美・細谷実・今井泰子・飯野扶佐子の7氏の報告があり、田嶋陽子・船橋邦子・井上輝子3氏の司会により、会員の熱心な討論が行なわれました。午後のワークショップでは全米女性学会等に参加された国信潤子・船橋邦子氏らの報告により情報交換が行なわれました。

横浜女性フォーラムという女の広場の雰囲気も手伝って、総会も含めて、率直な意見交換のなかで、互いに語り合おうという会員の努勢が目立つ大会であったと思います。

(以上 文責 加藤)

日本女性学会第11回定例総会議事録

日 時 1990年6月30日(土)16:20～18:20  
場 所 横浜女性フォーラム セミナールーム  
出席者 32名(成立時)

田嶋陽子代表幹事が開会宣言をした後、会員から議長(しまようこ)・書記(河出三枝子)が選出され、議事に入った。

## 1. 1989年度活動報告

### [A] 一般

内藤和美庶務担当幹事より、1989年度の活動報告がなされた。

会員一同承認。

### [B.] 学会誌編集委員会

まず、国信潤子編集委員が次のような概況報告を行った。

#### (1)刊行の遅延について

期待に沿うものを出そうということで遅れている。具体的には、原稿募集と論文の読み込み、投稿締め切りの延長決定、再募集と締め切りの再度延長という経緯をとってきた。急いで出すか、よいものを出すために待つかのうち、後者の選択をしたことを理解してほしい。

#### (2)現 況

現在、1991年3月末日の締め切りが確定している。しかし、論文の本数が絶対的に不足している。締め切りを延長したことによっていくつかの論文が他のチャンネルに流れ、さらなる本数不足を招くこととなった。今のところ固まりそうなものが2本あり、投稿者とコメンテーターとの間を往復している。海外情報・国内情報は4本揃っているが、情報が古くなるのが危惧される。

#### (3)編集委員の変更について

内藤和美委員が89年10月15日より加わる一方、当初の中安みどり委員が辞退を表明している。現在のメンバーは、亀山・福井・小林・内藤・溝口・国信の6名である。

これを受けて、以下のような意見が交換された(4つの論点にまとめる形で整理したのは書記の意志による)。

#### (1)論文の質と機会均等

- ・編集委員・幹事・コメンテーターなどが質の高いものを書いてまずスタートさせ、軌道に

のせてほしい。そして初心者でも“思い”のある者に記載の機会を与え、育てて行く学会であってほしい。完璧なものを期待して待つよりも、まず出して叩かれて何かが生まれていくのではないか。

- もともと広く学会員に機会を提供するということから出発したと記憶している。他の機関誌にルートを持つ者は、むしろ遠慮することではなかったか。
- 書くチャンスのある人間とそれの少ない人間が会員を構成している。前者については、依頼原稿でなければ無理ではないのか。例えば、「女性学研究会」からジャーナルが発刊されるが、企画が明示されて依頼があった。（執筆者の）予定が詰まっている状態では、自由応募では集めにくい。
- より定評のある学会誌へ論文が流れることとなった今、自分達の考えていることを知ってもらう場として自信作を優先的に投ずるなど、この学会を可愛がっていききたいものだ。

## (2)「学会」の性格と発刊の手だて

- 「女性学研究会」は東京中心の研究者集団であるのに対し、当「学会」は、運動を含めて多様な層が重なり合い、地域的にも拡がりを持つ集団だ。まとまりにくく、学会誌を出す大変さがある。しかし、どこまでいって決断するかが明瞭でなく、来年3月で原稿が集まらなければどうなるかという不安もある。当初は本学会でこそ発表の意味があると思って応募したが、時間が経つと価値のさがる性格のものなので、他に発表の場を求めることとなった。期限を決めて一気に事を運ぶ方がうまくいく場合もあるのではないか。
- 立派なものでなくてもよいから、まず狙上へのせるものを出すことが先決。原稿を集める方法としては、学会誌のコンセプト・切り口等を掲示し、執筆者を狙い撃ちにして依頼する。
- 「学会誌」は、過去10年の総括として、是非出ている性格のものである。原稿不足に関しては、編集委員が会員に原稿依頼を行う権限を与えたつもりだった。
- (コメンテーターの1人として) 表現形式の不統一を感じた。書く側の立場に立って、マニュアル的なものを用意するのが親切ではないか。
- 学会誌に「日本女性学会」独特の特徴を出したらどうか。従来女性学は社会学的アプローチが多いが、当学会の構成メンバーからは、心理・芸術・文学などに焦点を絞ることもできる。

- 「女性学研究会」のジャーナルは、論文を書く見通しのある研究者集団から出発している。しかも、2年間の研究交流会を下敷きとしている。当学会の性格からは、これまで大会で取りあげてきた内容を形にするなど、具体的な柱立てを打ち出さないと難しいのではないか。ただし、投稿の場も確保し、いろいろな人が自由に書いて力をつけていくチャンスとしたい。

## (3)コメンテーターのフォローアップとコンセプトの形成

- (投稿を取り下げた者として他の機関誌との接触も含め) 同一の作品に対するコメントが読む人によって全く違った。もはや相手に振りまわされることなく、然るべき手段で自分を貫いて行きたいという気持である。
- (編集委員) 各領域のコメンテーターが真剣に読んでくれることだけは理解してほしい。コメントの中味に対する疑義を総会という場に一般論として出されても対応が不可能に近い。編集方針については今後編集委員で練っていくことになるが、編集委員の当事者として意見を言うことだけの人間がもっと多くてもよかったのではないか。
- (コメンテーターの1人として) コメンテーター同士、コメンテーターと執筆者が直接出合い話し合う方がよいのではないか。
- (同じくコメンテーターの1人として) 編集者に対する不信ではなく、仕組みそのものに対してであるが、投稿者との関係が、ブラックボックスになっているため、お互いどうなったのかという不満も残る。顔を見て意見交換できるとよい。執筆する側に身をおけば、人の意見を聞き、二重三重に揉まれていく場が必要だと思われる。
- 執筆者をフォローすることは編集者の権限に属することであり、それよりも強い力を持つかに見えるコメンテーターを置くことに疑問がある。
- コメンテーターは必要。基礎的な参考文献が脱落していることもあるし、学際的な性格を持つ女性学には特に重要だと思われる。
- コメンテーターが投稿者と直接出会えない方法は今後も変わらないのか。
- (編集委員) 名前を伏せた方式でいきたい。コメンテーター同士、矛盾したコメントになる時もあるれば、一致する時もある。最終的には執筆者自信の判断により、取り入れていくものがあればそうしていくという性格のものである。

## (4)当面の方針・動き方

- 仮に大会の活動を基盤とするということでは

くならば、創刊号は今回の「生殖の政治学」を柱とするのか。

- 当初柱立てがあったわけではないので、既に出ているジャンルの論文を排除することはフェアでないと思われる。2号、3号を見通した論文の扱いを考えていく必要があるのではないか。
- “文学”というぐあいに方法を限られてしまうとフェアでなくなる。1つの提案であるが、“Feminist Criticism”で特集をし、これに投稿論文を組み合わせれば、シンポジウムや分科会でやったことも活かせるし、各分野からの参加も可能になるのではないか。
- 10年の総括がなければ11年目が始まらない。10年間を振り返る特集（関係者の談話、1989年度大会の駒沢・藤枝対談など）を組み、それに投稿や学会記録をつなげていく。
- 2年前にこの議論はなされるべきであった。幹事の一人として責任を痛感する。前向きに進めるために次回の編集委員会は拡大してほしい。
- （編集委員）自己反省も含めて認識を乞うならば、編集委員が京都・名古屋・東京に散在し、とにかく大変だという内部事情もある。今後は編集委員会を拡大にしてオープンにしていくのも方策であろう。編集委員はもちろん、幹事、会員の一人一人の責任でもあるので、皆で協力していく必要がある。
- （編集委員）微妙な問題も絡んでくるので常に拡大というわけにはいかないが、今回は今日の延長として拡大にしたい。意見のある方は、できるだけたくさん参加していただきたい。

以上の意見を踏まえて、次の諸点が確定ないし確認された。

(1)原稿の締め切りは、1991年3月末日でいく。

内容については、編集委員会で検討し会員に流す。

(2)第9回編集委員会は拡大委員会とし、7月28日（土）午後1時から昭和女子大学内藤研究室で行う。

(3)既に進んでいる原稿については、編集方針のいかにかわらず、ひき続きおし進める。

## 2. 1989年度会計報告

河野貴代美会計担当幹事より、決算報告がなされた（別掲）。

会員一同承認。

## 3. 1989年度会計監査報告

諸橋泰樹会計監査から、「1989年度の会計を監査したところ、健全に運営されていることが認証された」旨報告された。

会員一同、会計監査報告を承認。

## 4. 第6期幹事ならびに会計監査の選任について

第6期役員選出選挙管理委員会を代表して桑原糸子選挙管理委員長から2案件が提出された（別掲）。

[A] 日本女性学会幹事改選選挙実施規程第3条(3)に基づく報告案件

「学会ニュース」No42に、開票結果に基づく選挙選出幹事の就任承諾を公示したが、当時意志確認のできなかった田川建三繰り上げ当選者から、その後就任辞退の表明があった。

[B] 日本女性学会規約第9条に基づく第6期幹事ならびに同第13条に基づく会計監査選任の案件

(1)上記[A]の結果、選挙選出幹事就任承諾者が14名（秋山洋子、上村千賀子、加藤春恵子、小林富久子、小松満貴子、田中和子、内藤和美、平川和子、深澤純子、藤枝滂子、船橋邦子、円より子、三井マリ子、渡辺和子——規程第10条(2)に則り、最下位繰り上げ当選の就任承諾者が今回複数となったため、定数10名を拡張した）、委嘱幹事就任承諾者が2名（諸橋泰樹、右衛門佐美佐子）と確定した。これら幹事就任承諾者の承認を提案したい。

会員一同承認。ひき続き、選任された幹事は点呼を受け、席上で紹介された。

(2)幹事会の推挙を受けた会計監査就任承諾者2名（漆田和代、賀谷恵美子）の承認を提案したい。

会員一同承認。ひき続き、選任された会計監査は点呼を受け、席上で紹介された。

なお、幹事の互選により、代表幹事に船橋邦子が選任された旨報告があった。そして船橋邦子代表幹事が紹介され、就任の挨拶が要請された。

## 5. 第6期代表幹事挨拶

船橋邦子代表幹事が、特に次の2点を指摘し協力方を要請した。

(1)日本女性学会そのものが活性化するように、選挙制度や幹事会のあり方を見直していきたい。

(2)宇野首相の退陣要求やミス・コンへのアクション、広告ウォッチングなど前向きの取り組みが進んだ反面、理論的なものを深める機会が十分でなかったきらいがある。研究会活動の活性化を図りたい。

## 6. 1990年度活動方針および第6期の運営に関する提案

船橋邦子代表幹事から次のような提案がなされた。

(1)活動方針としては、ひき続き年2回の大会と年4回の「学会ニュース」発行を活動の核とする。

(2)第6期の運営に関しては、①常任幹事制をとり入れる ②事務局を「学会事務センター」に設置することを提案したい。

理由は、①は緊急事態に速やかに対応するため、②は会員の拡大に伴って膨張する事務量の負担を軽減するためである。

また②の委託事務の内容は、「学会ニュース」の発送、通信の窓口、会費徴収、名簿の整理

(入退会の処理)である。

これに対して次のような意見が出された。

①について

- 緊急時数人の人間で事を進める態勢は必要である。
- 学会規約第11条に基づいているので、承認を得る性質のものではない。

②について

- やってみる価値があるのではないか。
- 内容的に把握していないとできない作業もあり、会員の声を直接聞ける場も必要なので、別途事務局が要るのではないか。

これらの論議を踏まえて採決が行われ、出席者29名(採決時)中、賛成26名、反対2名をもって「学会事務センター」への事務局設置が決定された。

7. 1990年度予算案

平川和子第6期会計担当幹事が1990年度予算案を説明した(別掲)。

承認。

8. その他

特に提案・発言なし。

以上をもって議事を終了し、田嶋陽子第5期代表幹事の閉会の辞により、日本女性学会第11回定例総会は閉幕となった。

以上

書記 河出三枝子

日本女性学会 1989年度会計報告

(1989年6月1日～1990年5月31日)

■収入の部 (単位：円)

費目	予算	決算	備考
前期繰越金	308,051	308,051	
会費	550,000	1,040,000	5,000円×208件
助成金・カンパ	100,000	210,000	京都精華大学100,000 法政大学100,000 女性学講座 10,000
活動収入	大会参加費 100,000 ニュース売上 30,000 講演その他 20,000	137,000 12,450	6月大会95,000 12月大会42,000
雑収入	10,000	61,446	郵便利子 9,335 パーティ差益 31,371 本の販売 20,663
合計	1,118,051	1,768,947	

■支出の部

費目	予算	決算	備考
大会・総会費	120,000	155,667	講師 30,000 アルバイト料 33,600 雑費 92,067
幹事会費	150,000	82,331	交通費補助 70,000 ニュース、雑費 12,331
事務局費	100,000	107,046	昭和女子大研究室のため不使用 切手代のみ
学会ニュース印刷	230,000	266,529	(No.39) 107,738 (No.40) 30,000 (No.41) 128,791
学会ニュース発送	90,000	60,868	(No.39) 18,261 (No.40) 13,510 (No.41) 18,339 (No.38) 10,538
学会誌積立	300,000	300,000	
幹事改選費	120,000	146,972	名簿印刷 60,000 発送 35,240 その他 51,732
予備費	8,051		支出せず
合計	1,118,051	1,119,213	

1989年度収支決算  
収入 1,768,947  
- 支出 1,119,213

649,734

特別会計

■収入の部

積立金繰越	1,000,000
本年度積立	300,000
合計	1,300,000

■支出の部

学会誌発行	1,300,000
-------	-----------

1989年度収支につき、監査の結果、適正であることを認めます。

1990年6月30日 諸橋泰樹 ㊟

日本女性学会 1990年度予算

(1990年6月1日～1991年5月31日)

■収入の部

(単位：円)

費目	金額	備考
前期繰越金	649,734	
会費	750,000	5,000円×150人
助成金・カンパ	100,000	
活動収入	大会参加費 100,000 ニュース売上 30,000 講演会等 20,000	1,000円×50人×2回 300円×100部
雑収入	10,000	預金利子等
合計	1,659,734	

■支出の部

費目	金額	備考
総会・大会費	150,000	
幹事会費	200,000	関西からの幹事、交通費補助 2,000円アップ
学会ニュース費	300,000 90,000	
事務局費	610,000	学会事務センター委託(年間 360,000円、初年度のみ140,000円) 内部事務費 110,000円)
学会誌積立	300,000	
予備費	9,734	
合計	1,659,734	

選挙管理委員会よりの報告

第6期幹事ならびに会計監査選任の公示

—日本女性学会第6期役員選出選挙管理委員会—

日本女性学会第6期幹事と会計監査が選任されるに至りましたので、ここに以下のとおり最終報告を致します。

1. はじめに—お詫びと訂正

「学会ニュース No.42」に公示しました第6期選挙選出幹事選挙の開票結果のなかに、以下の誤植・誤記がありました。お詫び致しますと共に、次のとおり訂正致します。

- 2～3行目 第6期選挙→第6期選挙選出幹事選挙
- 8票の欄 添田和子→漆田和代
- 6票の欄 ジュニソン・レベッカ→ジュニソン・レベッカ
- 4票の欄 大脇雅代→大脇雅子
- 3票の欄 雑賀文賀→雑賀文香

2票の欄 長谷川福子→長谷川禮子

2. 選挙選出幹事選挙当選者の就任諾否の最終確定報告

日本女性学会幹事改選選挙実施規程第3条(3)による選挙選出幹事就任承諾者の公示の時点(「学会ニュース No42」参照)で保留だった田川建三繰り上げ最下位当選者から、幹事就任辞退の返信がありましたことを報告します。これにより、先に公示しました選挙選出幹事就任承諾者14名が、最終的に確定しました。

3. 第6期委嘱幹事就任承諾者の確定

第6期選挙選出幹事就任承諾者の合意により、第6期委嘱幹事就任承諾者には、諸橋泰樹、右衛門佐美佐子の2名が確定しました。(日本女性学会幹事改選選挙実施規程 第1条(1)、同第11条 参照)

4. 第6期幹事ならびに会計監査選任の公示

日本女性学会第11回定例総会において、第6期幹事就任承諾者が日本女性学会規約第9条により、また同会計監査就任承諾者が同13条により、それぞれ、承認されましたので、各々、幹事ならびに会計監査に選任されました。氏名を公示します。(以下50音順)

(1)第6期幹事 16名

①選挙選出幹事(14名) 秋山洋子、上村千賀子、加藤春恵子、小林富久子、小松満貴子、田中和子、内藤和美、平川和子、深澤純子、藤枝滯子、船橋邦子、円より子、三井マリ子、渡辺和子

②委嘱幹事(2名) 諸橋泰樹、右衛門佐美佐子

(2)第6期会計監査 2名 漆田和代、賀谷恵美子

5. 第6期代表幹事の紹介

日本女性学会規約第10条により、第6期代表幹事には船橋邦子が選出されました。

<付記> 当選挙管理委員会は、第11回定例総会終了(第6期の役員発足)をもって解散しました。

(以上 文責 桑原)

---

### 日本学術会議学術研究団体登録について

8月31日付で日本学術会議推薦管理会より連絡があり、引き続き学術研究団体として登録されることになりました。関連研究連絡委員会は「社会学」とのことです。

---

### 会員の異動

---

### 会員からの寄贈

#### 【カンパ】

6月大会の際、会員より2万円のカンパを頂きました。

#### 【会員の著作の寄贈—図書】

- 『屋根裏の狂女 ブロンテと共に』サンドラ・ギルバート他著 山田晴子・藺田美和子訳 朝日出版社 山田晴子さんより
- 『自立をねがう性のしつけ 働く母親から娘たちへ』小野清美教育史料出版会 小野清美さんより

#### 【会員の著作の寄贈—資料】

- 『戸籍偽制による「実子」偽装の慣習—神奈川県高座郡の事例— 明治期婚外子に関する法制度の問題点』田中弘子さんより
- 『男女役割分業の歴史』照井孝保(「岩手日報」6.1記事) 照井孝保さんより

## 会員新著作紹介

- ・『セカンド・シフト——アメリカ 共働き革命のいま』アーリー・ホックシールド著 田中和子訳、朝日新聞社、1990  
「新聞紙面にあらわれたジェンダー——性差別表現の量的分析を中心に——」田中和子・女性と新聞メディア研究会、
- ・『國学院法学』第28巻第1号、1990. 國学院大学  
「新聞家庭面の女性学——性別面建ての歴史とその改廃をめぐって——」田中和子・女性と新聞メディア研究会、
- ・『國学院法学』第28巻第2号、1990. 國学院大学
- ・『女性雑誌を解説する——日・米・メキシコ比較研究』井上輝子＋女性雑誌研究会、垣内出版、1990が、第11回日本出版学会賞を受賞しました。

### ◇寄贈・会員新著作紹介について◇

事務局移転に伴ない、日本女性学会は、会の運営上必要不可欠な帳簿等を除いては保管機能をもたない「動く学会」としての色彩を強めることとなります。これまで御寄贈頂いた資料等につきましては幹事会で討論しつつ大切に活かしていきたいと思いますが、今後は、当『学会ニュース』に「会員新著作紹介」欄を設けますので、現物の御寄贈に代えて、会員著作等の情報をぜひお寄せ下さい。会の外からの資料の御寄贈についても、保管、会員への貸出し共に困難なため、減らして頂く方向とし、これについての情報提供はストップします。御不自由をおかけすることもあるかと思いますが、公立の婦人情報センター等を御利用下さるようお願いいたします。

## 幹事会だより

○第5期第8回幹事会 5月21日 17:00～18:50

場 所：私学会館1Fロビー

出席者：加藤、河野、桑原、内藤、深澤、船橋

- 日本学術会議第15期会員選出に係る学術登録団体の申請について検討の上、第14期に引き続いて申請を行なうことに決定。担当者を加藤さんとして手続きに入ることとした。
- 選挙管理委員会より第6期会計監査の推挙の要請があり、漆田和代、賀谷恵美子両会員に決定（後日交渉の上受諾された）。
- 6月大会のプログラムを確認、任務分担を決定。

○第5期第9回幹事会 6月30日 10:40～12:40

場 所：横浜女性フォーラム 3階会議室

出席者：亀山、河野、國信、桑原、田嶋（以上5期幹事）。加藤、内藤、深澤、船橋（以上5期幹事、6期承諾）。秋山、小林、田中、平川、諸橋、右衛門佐、渡辺（以上6期幹事承諾）。

第11回定例総会の議案等を検討し、以下について決定した。

①1989年度活動報告（案）、会計報告（案）について

●1989年度活動報告案が内藤さんより、1989年度会計報告案が河野さんよりそれぞれ報告され、第11回定例総会議案として承認された。

●学会誌積立金130万円は、学会誌編集委員会の活動の便宜代をはかるために、全額、同委員会に委託していることを確認。支出状況の報告は別途行われるが、これまでの支出は1万円程度とのこと。総会では特別会計支出の部・学会誌編集委員会の会計報告の準備がないことを確認した。

②第6期幹事と会計監査の選任議案について

●田川建三 繰り上げ最下位当選者の就任辞退が確定したことが、第6期役員選出選挙管理委員会より報告される。

●選挙選出幹事就任承諾者14名、委嘱幹事就任承諾者2名、会計監査就任承諾者2名について承認。

③第6期の運営に関する提案

●学会規約第11条にもとづき、常任幹事数名を置く。ただし第1期幹事会が常任幹事システムで失敗していることを教訓にする。

●学会事務局を学会事務センターに委託する。委託にともなう初年度47万円支出増は、繰越金を含む1990年度の予算案内で可能であることを確認。しかし事務委託が不合理であることが判明した場合は再検討を行う。

④1990年度活動方針案

●年2回の大会、年4回の学会ニュース発行の継続について、の2案を総会に提出することを決定。

⑤1990年度予算案について

●本紙「総会報告」欄の予算案を作成、総会にはかることにした。

●繰越金に依拠して、実収入（会費等の収入）を上回る支出の予算であり、来年度は会費改定の必要性が強まるとの話合いがなされた。会費納入率のアップと新入会員の増加による実収入増をはかる努力が必要であろう。

⑥第6期幹事決定

●第6期幹事就任承諾者の互選により、第6期の代表幹事に船橋邦子さんを選出。

⑦第11回定例総会議長の変更、書記の選出

●総会議長をしまようこさんに依頼した。

●本総会から幹事の記録係とは別に、会員より書記を選出することとし、河出三枝子さんに要請、同会員もこれを承諾した。

▷以上、第11回定例総会には、上記①～⑥までを議案として提出することが確認された。

○第1回（第6期）幹事会 6月30日 18:30～20:30

場 所：横浜女性フォーラム 3階会議室

出席者：秋山、加藤、小林、小松、田中、内藤、平川、深澤、船橋、諸橋、右衛門佐、渡辺  
<旧幹事>井上、河野、國信、桑原

①常任幹事の決定

●秋山、加藤、内藤、平川、船橋、渡辺の6幹事が、常任幹事を務める。臨時の協議等は常任幹事間で行

い、円滑な運営をはかることを決定。

## ②幹事のグループ分け

●幹事会活動の効率化をはかるため、試験的に、大会担当を基軸に1年づつ、16名の幹事を2グループに分けて任にあたることとする。

●なお、幹事会への出席、学会運営に関する諸事項の協議・決定、大会の企画・運営は2年間を通じ、全幹事が担うことは、従来通り。

●グループ分けは、次の通り。

1990年度 ( )内は任務分担

上村(調査等への対応)、加藤(日本学術会議、学会ニュース)、内藤(学会事務センター、資料・連絡案内処理)、平川(会計)、船橋(大会世話人、メディア対応)、諸橋(学会ニュース)

1991年度(のち、秋山幹事は90年度の大会世話人に移動)

秋山、小林、小松、田中、深澤、藤枝、右衛門佐、渡辺

## ③今後の大会について

1990年秋(12月15日～16日) 国立婦人教育会館

1991年春(6月) 東京女子大学を予定

1991年秋(11月) 京都産業大学、または武蔵川女子大学を予定

1992年春(6月) 早稲田大学を予定

## ○第2回幹事会 8月3日 17:30～21:00

場 所：國学院大学 本館2階会議室

出席者：秋山、加藤、小松、田中、内藤、平川、深澤、船橋、右衛門佐、渡辺

## ①幹事辞退者について

●第6期役員選出選挙で幹事となった三井マリ子さん、円より子さんの2会員は、幹事会参加・任務分担に懸念があるとの理由から、幹事を辞退することとなり、了承。幹事の補充はせず、1990年度担当グループに秋山さん(12月大会担当)が回ることとする。

## ②12月大会について

●テーマを、シンポジウム形式による「女性への暴力」とし、コーディネーターを船橋さんが行う。発表内容案として、子どもへの暴力、妻に対する暴力、sexual harassmentなどのテーマがあがった。

## ③学会誌について

●7月27日に開かれた拡大編集委員会での確認事項について報告を受け、討議を行った。なお、人員が不足していた編集委員会に右衛門佐さんが加わることに決定。

## ④代表幹事制度について

●今期代表幹事となった船橋さんより、代表幹事が必要かどうか、フェミニズムにおけるリーダーシップについて問題提起があり、討議。きちんと討議すべき問題として、12月大会前泊での幹事会討議、およびワークショップに出すことを決定した。

## ⑤その他

●学会事務センターへの事務移管、(委託内容を、本『ニュース』別掲「お知らせ」のように確定)寄贈資料の処理(従来のものを昭和女子大女性文庫に寄贈し、今後は、寄贈を受けるかわりに会員から著作などについて報告を受け、『ニュース』に紹介するようにする)、学会ニュースの印刷場所、日本学術会議参加申し込み、などについて報告がなされた。

## Information

### ■シンポジウム 山川菊栄生誕百年を迎えて

と き 1990年11月3日(土)13:00～16:30

と ころ 津田ホール(JR千駄ヶ谷駅前)

○フィルム上映「山川菊栄のあゆみ」(仮題)

○竹中恵美子氏、井上輝子氏、李順愛氏によるシンポジウム

問合せ先 山川菊栄生誕百年を記念する会

TEL 03-816-5075

## 編集後記

○6月大会が終わり、学会ニュース発行にしばらく間があきすぎてしまったことをおわびいたします。事務局の移転や新旧幹事の交替などで、事務手続きやインフォメーションに、いたらぬところがあるかもしれませんが、よろしく願いたします。○本号は、学会事務の変更や学会誌のこと等、6月大会での第11回総会で重要なことが話し合われたので、当日の綿密・詳細な記録を取っていただいた河出さんの議事録を目いっぱい生かさせていただき、さながら「総会特集」となりました。今までの学会ニュースの“読みもの”的な面白さ・楽しみが減ってしまったきらいはありますが、臨場感あふれる総会記録から、学会に対する各会員の真摯な取り組みが伝わってきますので、どうぞ精読ください。

○学会ニュース向けの投稿原稿は、常時受け付けております。事務センター気付日本女性学会か、ニュース担当幹事までお寄せください。なお、本紙でもふれましたが、寄贈資料・図書を受けることは、スペースの都合上、中止のやむなきにいたりしました。が、会員著作のコーナーを新たに設けましたので、近著の著書や論文のタイトルをどしどしお知らせ下さい。

○学会員を増やすために、入会申し込み書を増刷中です。申し込み書をフル活用して、会員獲得にご協力お願いいたします。

○また、秋季大会は、年末ですが泊まり込みやすい国立婦人教育会館を確保しました。研究発表・ワークショップの申し込み期日が迫っていて恐縮ですが(10月30日まで、大会担当幹事に申し込みを)多くの方の研究発表をお待ちしております。

○学会誌の論文も、ふるってご応募ください(投稿規定は学会ニュース第39号)。締切は来年3月31日です。

○というわけで、もう一人の担当幹事、加藤さんに大きく助けられ、「紀子フィーバー」と「イラン・イラク」に対する日本人および日本のスタンスをあらわにした初秋に、ニュースをお届けいたします。

(M)